

2022年度

放送教育実践事例集

全放連研究推進部

小学校 1 学年 国語科 昔話をタブレット端末とアナログを併用しながら親しみましょう

～「おはなしのくに」とロイロノートを使って～

杉並区立新泉和泉小学校（杉並区立杉並和泉学園） 稲田 路子

【実践報告の概要】

個別最適な学びの実現に向け、子どもたち一人一人が自分自身で作品を選び、それぞれの紹介の方法で、昔話を紹介し合える授業を目指した。もちろん一斉視聴と個別視聴の差もなければならぬ。つまり、最初に一斉視聴や体験して見通しをもたせた後に個別視聴を行うようにした。一斉視聴で感想を述べあっても、「おはなしのくに」は、画面を中心に見る子、音声を中心に聞く子、その選択で、よりお話の面白さや良さを子どもが自ら個別に理解できる。さらにさまざまな見方ができるからこそ、どのような子どもたちにも身近に視聴し楽しむことのできる学びに繋がれると考え、実践した。

【取組の具体】

●「むかしばなしをしようかいしよう」（3, 4/4 時間）

昔話に親しみ、カードにまとめ、友達と交換して伝え合う。

2 学期の 11 月

（第 1 時）

- 昔話『わらしべ長者』の読み聞かせを聞く。
 - あらすじや感想を簡単に発表しあって黒板にまとめる
- 読みたい昔話を選んで読み、カードに書く。

（第 2 時）

- 書いたカードを交換して読み合い、昔話について読書に親しむ。いろいろな本（昔話）があることを知り、読んだ昔話を伝え合う。

3 学期の 1 月

後半の応用編本時 2 時間

（第 3 時）

- 一斉視聴で『はなさかじいさん』を視聴して、書き方の例や学習の仕方を確認する。
- ロイロノートでNHK for school の各番組のページを送る。
- 児童が物語を選択して個別視聴して、ロイロノートのカードにあらすじと感想をまとめる。
- ロイロノートの提出箱にカードは無記名で提出して、互いの書いた内容は分かるが誰が出しているかは分からないようにして共有を図る。

（第 4 時）

- 3 校時で提出が終わらなかった児童は提出し、意見の共有を図る。意見を共有して思ったことを各自カードにまとめる。
 - 感想やあらすじを友達に話して、それがどの昔話を当てるクイズ大会を行う。
- ※基本的には 1 対 1 でクイズを出し合いそれを何人かで交換しながら行う。



【活用番組と実践者による番組分析】

定番である「おはなしのくに」

『はなさかじいさん』（一斉視聴）『かさこじぞう』『きんたろう』『ぶんぶくちやがま』『うらしまたろう』『いっすんぼうし』『雪女』『つるのおんがえし』（個別視聴）

「おはなしのくに」は、低学年において長年使われている定番の番組である。一流の語り手による読み聞かせと効果音などの演出によって、分かりやすく作品の世界に子どもたちを誘ってくれる。このことから主体的に物語を選び、学習に向かう意欲を喚起させる番組ととらえている。

【本実践における工夫点】

一斉視聴と個別視聴の良さを生かす

一斉視聴では、視聴中のつぶやきなどで「昔話」に対しての関心や興味をより高めることができた。まとめ方を一斉に指導する前提として行うことができた。

タブレット端末の活用

GIGA スクール構想で一人一台端末の活用がいわれている中で、昔話という素材を 1 年生よりアナログとデジタルで表現して学ぶ方法を考えさせたいと、工夫して行った。デジタルの方が無記名ながら友達作品を見て自分はどう書いたらよいかなどをすぐに共有し合うことができた。

発表形式の工夫

発表形式は、1 対 1 のクイズ形式で行うこととした。なぜならば 1 年生の学習ではこれまで「じどう車くらべ」などで各自動車のことを調べ、調べたことをクイズとして出しているからである。つまり子どもたちのなれている形式である。これにより、まとめ方や発表の仕方はいつも通りで子どもたちにとって分かりやすくしている。子供たちは安心して進んで学習に取り組んでいる。

【本実践の成果と今後の取組】

【成果】

番組視聴により子どもたちの昔話についての興味関心が高まり、1 月に行われる読書月間の感想文をまとめる際に 6 割以上の児童が昔話を選んでいただけた。1 回目の読み聞かせよりも自分で選択して視聴することで子どもたちの感想も満足している様子が見られた。

【今後の取組】

多様な課題をもつ児童全員が満足できるように今回のように放送番組と絵本の、発表もタブレット端末とノートの選択をできるように、個別最適、自由進度的な学びをできるように新たな方法を考えていきたい。

小学校2年 自立した課題解決学習に向けた低学年の取り組み

～『さんすう犬ワン』と『さんすうレスキュー』を活用して～

川崎市立富士見台小学校 宮崎 誠

【実践報告の概要】

個別最適な学びの実現に向け、子供一人一人が自らを調整し、個性ある学びを通して資質能力を高めていく姿を目指した。低学年時では学びの個性化を目指し、子供が自らの意思で手段を選択し、情報の収集や整理・分析、まとめ表現をするための素地を養う時期であると考え。小学校2年生の算数のいくつかの学習において、課題解決のための複数の手段を提示し、子供が自ら選択して学習を進めることができるようにする実践をした。選択肢の中に学校放送番組を取り入れることで、低学年でも自分の力で情報を集め、まとめることができた。

【取組の具体】

2年生 算数「長さ（6月）」「かさ（9月）」「1を分けて（2月）」の学習において、課題解決のための複数の手段を提示し、子供が自ら選択して学習を進めることができるようにした。選択肢は「教科書で調べる」「パソコンで調べる」「NHK for Schoolで調べる」「実際にやってみる」「友達（先生）に聞く」とした。

《学習のおおまかな流れ》

○学級全体で『さんすう犬ワン』や『さんすうレスキュー』を視聴し、わかったことやもっと知りたいことを共有する。（最後に行った「1を分けて」の実践では、全体視聴はしなかった。）

●共有したことをもとに、単元の課題を設定する。

分数、かけ算、テープ図などを、学習して、こう最初は分数の意味がわからなかったけどわかるよう分数は同じ大きさじゃないと、ちゃんと分けたと分けてきれた
パンを半分にするにはたてとかにしれば半分になっていくのうらやが上がった
1を分けてという概念で、いろいろなことしまぼんを半分二で来た



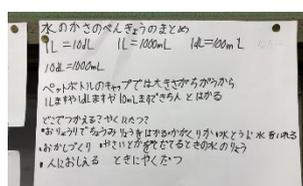
●いくつかの課題を自分の取り組みたい順序で解決する。（3時間程度、冒頭の選択肢から方法を選んで、自分なりに解決する時間をとる。）



●全体で発表したり、GIGA端末で振り返りを入力したりして、毎時間自分がやったことと学んだこと、次の時間のめあてを共有する。



○学習の成果を自分なりにまとめる。



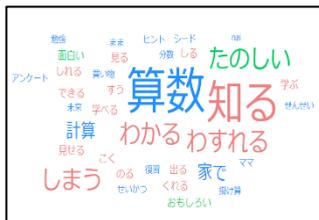
【活用番組と実践者による番組分析】

NHK for School サイトは、低学年にも使いやすい

検索やリンクのUIは、年々使いやすく改良されており、検索スキルやタイピングスキルの低い低学年でも自分の知りたいことを探しやすい。

定番『さんすう犬ワン』と新番組『さんすうレスキュー』

『さんすう犬ワン』は長年利用されている番組で、内容が充実している。また子供が一人で見ても、内容が理解しやすい。一方、『さんすうレスキュー』は、子供にとって身近な題材で作られており、自分で活動を広げやすい。



『さんすうレスキュー』を見て、自分でもパンを半分に分けてみようとしている子供の様子。



（「算数でNHK for schoolを見る理由」という対象学級でのアンケート結果をテキストマイニングにかけたもの）

【本実践における工夫点や意識したこと】

一斉視聴を通して番組と出会う

「長さ（6月）」「かさ（9月）」では、単元のはじめの時間に番組を一斉視聴した。番組の視聴時間を共有することで、友達の感じたことや疑問に思ったことにより共感しやすくなることをねらった。また、番組について知ることによって、自分で調べる時に手掛かりになるようにした。番組に親しんだ2月は一斉視聴をしなくても、自分で探すことができた。

パソコンの操作は目的ではない

調べる手段に気づくことをねらっており、本実践の中で、検索の技能を高めることはねらわなかった。「パソコンで調べることができる」ということを理解できればよく、パソコン操作がまだ得意でない子にはアナログの手段を勧め、友達との共有を通してパソコンの良さにも気づけるようにした。

【本実践の成果と今後の取組】

【成果】

一年間の取組を通して、子供たちはパソコンを使って調べたり、調べたことを実際に確かめたりまとめたりする楽しさを知ることができた。日常の疑問についても番組を使って調べようとする姿もあり、NHK for School を使いこなしている様子が見られる。

【今後の取組】

低学年の番組は、現在制作が進んでいる。新しい番組の登場とともに新しい活用の形を検討し、子供が自分の判断で情報を集めることができる力を身につけさせたい。

～互いのモヤモヤを共有する「もやモ屋」の活用～

新座市立片山小学校 関根 直樹

【実践報告の概要】

昨今、世間では様々な問題が毎日のように報道されている。未来を担う子供たちにとっても、教師にとっても、互いを尊重し認め合う多様性が重要である。

子供たち一人一人にも、また教師自身にも様々な背景がある。豊かな心や創造性を涵養するためには、教室にいる全員の思いをひろげ、つなげていくことが大切である。「わいわいタイム」「ミーティングボード」を活用し、子供たちが互いの価値観を大切にし、学びを深めていくことができるように授業を実践した。

【取組の具体】

① わいわいタイムの実施

番組視聴後、子供たちが感じた思いや考えたこと、導き出した結論など自由に発言している。しかし、一人一人が持つ考え・価値観を授業の中でひろげ、つなげていくためには、全体の中で発言して授業を展開するだけでは限界がある。発言の中で、周囲の友達と自由に話し合う「わいわいタイム」を適宜設定し、考えたこと、友達の発言を受けての思いなど自由に意見を交流させる。

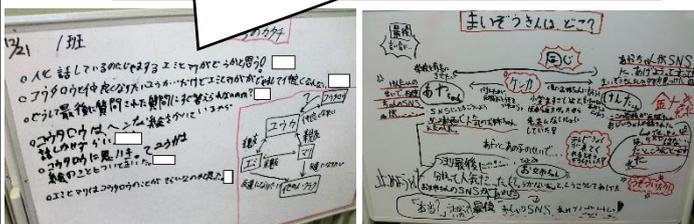
② ミーティングボードの活用

教室の子供たち全員が、番組視聴後に貴重な考えをもっている。友達の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりする中で、さらに磨かれ、深まっていく。よりひろげ、つなげ、学びを深めるためには視聴後の時間がとても重要である。

互いのモヤモヤを共有するために、可動式ホワイトボード「ミーティングボード（本校の呼称）」を活用した。

左「ともだちのカタチ」
右「埋蔵金はどこ？」

児童が書いた
ミーティングボード



班ごとに配付するミーティングボードを中心に、子供たちは思い思いに発言していく。司会進行役がいなくても、次々に発言し、記録する子が位置付けていく。箇条書きする班もあれば、構造的に記入する班もある。班ごとに作り上げた板書を、教師が黒板の板書として位置付けていった。

左「ともだちのカタチ」
右「埋蔵金はどこ？」

教師が書いた板書



【活用番組と実践者による番組分析】

もやモ屋

「もやモ屋」は、これまで放送されていた中学年向け道徳番組「時々迷々」と同じように、同世代の子供たちが様々な問題に直面し葛藤する姿が描かれている。その中でも、「もやモ屋」は10分間という短い時間の中に、複数の価値観が交錯するとともに、結論が出る前に終了することが多い。視聴する子供たちは、続きが気になり、話し合いがより活発になる傾向があると考えている。

【本実践における工夫点】

全教育活動の中での実践であること

子供たちが互いの思いを尊重するためには、道徳の授業時間だけでは不十分であると考えられる。日常場面においても互いの多様な価値観を尊重し合うことが重要である。そのため、全ての教育活動の中で「わいわいタイム」や「ミーティングボード」を活用した。

「わいわいタイム」では、何を話していいのかわからない様子も当初は見られたが、2週間程で素直に分からないことや悩んでいることなど話す様子がみられるようになった。

また、「ミーティングボード」を本校では3年前より全学年で活用している。プログラミング的思考ツールとして、話し合い活動の一助として、様々な場面でノートと同じような感覚で活用している。

この2つの取組が埼玉県放送教育研究会で実践している「意味場」と「空発問」の理論と合致していると考え、放送教育でも同じように活用することによって、より友達とひろがり、つながると考えた。

【本実践の成果と課題】

- 児童同士の話し合いがより活発になった。活発になればなるほど、自然と教師が番組を通して狙いたいと考える内容項目にも迫ることができた。
- 友達同士のやり取りの中で「ってことはさ、…」と発言する姿が多く見られるようになった。特に、番組は、読み物教材と違い、同じ土俵に立てるため、より深まりが顕著に見られた。
- 個々の話し合いが十分に全体へ広げられたのか、ミーティングボードと板書の両方を活かす学習展開であったのか、など十分な教材研究と児童理解が求められる場面があった。

小学校4年 「みんなと学ぶ」から始まる放送教育 ～自由進度学習につなげる番組活用～

（活用番組『よろしく！ファンファン』）

さいたま市立大宮南小学校 石川 秀治

【実践報告の概要】

GIGA 端末により、子供が自分の学びを計画して実行する自由進度学習が広がっている。教育番組の活用を目を向けると、部分視聴や個別視聴等、多様化している。自分の学習を進めていく時に、それは必要になるであろうが、まず一定の共通認識をもち、かつ課題意識をもって一人一人が自分なりの学習を進めていくことが大切だと考える。単元始めに教育番組を一斉視聴して「みんなと学ぶ」ことで、同じ土台に立つことに加え、自分だけでは思いつかなかった考えなどを知り、その後の自由進度学習に進めば、より質の高い学びになると考え、実践した。

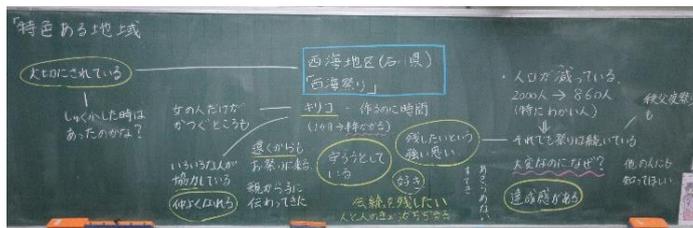
【取組の具体】

活用番組『よろしく！ファンファン』
4 学年社会科 小単元「蔵づくりが残る川越市」

単元計画

時	学習活動 内容
1	○県内の特色ある地域にどのような場所があるか話し合う ○さいたま市からの方位と位置を確認する ○それぞれの地域にはどのようなよさがありそうか話し合う
2	○『よろしく！ファンファン』「特色ある地域 ～伝統文化をいかした地域づくり」を視聴する ○わかったこと、考えたことを発表する ○学習問題を立てる 川越市では、なぜ今でも蔵づくりのまちなみを残しているのだろうか？
3	○学習の計画を立てる (1) 自分の考え（予想） (2) 調べる要素【共通】（ノートにまとめる） （川越のうつつかわり年表 地域の人たちの取り組み 国や市の取り組み これからのまちづくり） 【発展】（オクリンクでまとめる） ①インターネットで蔵づくりのまちなみを調べる →「蔵づくりのまち 川越」の宣伝をつくる ②他の地域では伝統をどのように生かしているか調べ まとめる（NHK for School クリップ動画を活用） ○学習計画を立てる
4	○計画に基づいて学習を進める
～	※グループで調べたい児童は、グループで相談してよい
7	※質問しながら進めたい児童は、座席を前にする
8	○学習のまとめ

番組を視聴した授業



視聴した番組では、石川県の西海祭りを取り上げている。番組を全て視聴した後、児童は西海祭りの特色を伝えたり、「大変なのになぜ続けているのだろう」という友達の疑問に、登場人物から関係付けた自分の考えを発言したりして、授業は進んだ。発言の連鎖によって、児童は祭りを残したいという人々の思いについて考えを深めていった。

番組視聴による自由進度学習への接続

学習の計画を立てる段階において、既習事項に加え、「西海地区では祭りをずっと大切に続けてきたから、川越も同じじゃないかな。」など、視聴してわかったことをもとにした発言が続き、調べたいという意欲を高め、「蔵づくりが残る川越」について、各自の追究に進んでいった。

【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組『よろしく！ファンファン』

- 社会的な見方・考え方である「時間」「空間」「人」の3つに視点をあてて番組が構成されており、社会科の学び方を理解することができる。
- 主人公がそれぞれの視点をもって現場を取材しており、ポイントを意識して社会的事象を捉えられる。
- 番組の内容と、自分の知識や経験、考え方等を意味付けたり関係付けたりして認識を深められる。

【本実践における工夫点等】

みんなと学ぶからわかる…一斉視聴の大切さ

放送教育のよさである「わかりやすさ」「自分らしく学ぶことができる」等を生かして理解することに加え、みんなと学ぶから、新たなことに気付いたり、自分が考えたことと友達との考えが関連したりするを通し、「わかった！」を実感できるようにする。



番組は全て視聴する

教育番組は、子供がわかることを意図してつくられている構造体であり、番組視聴を学習の入り口として、一定の共通認識をもつことができる。扱われる事象は関連しており、どこに興味や関心をもつかは一人一人異なるが、視聴後に話し合うことによって、それらは意味のあるものとしてつながり、知識として定着していく。それを土台とし、学習を進めるようにする。

自由進度学習で個別に視聴し、自分の学びを進める

全員で番組を視聴し、「伝統」「人々の思い」等の視点をもって各自の学習を進め、発展としてクリップ動画を視聴する活動でも、ポイントを押さえて授業支援ソフト（オクリンク）でまとめられるようにする。

【本実践の成果と課題】

- 番組をすべて視聴し、みんなで学び合うことによって、自分だけでは気付かなかったことや考えていなかったことが補完でき、全員が土台となる知識を身に付けて学習を進めることができた。
- 自分の計画で進める学習であったが、番組で視聴したポイントを意識してまとめたため、大きく外れるようなことはなく、まとめることができた。
- △自由進度を意識した学習としては初であったためか、進め方に戸惑いを感じる児童もいた。今後も計画的に実施し、追究できる児童の育成を図りたい。

小学校4年 考える力を高め、心を育てる放送教育

草加市立栄小学校 内山 真実

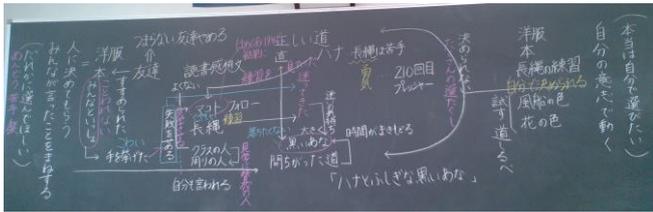
【実践報告の概要】

放送教育には、子どもたちの考えを引き出す力がある。その力と「空発問」（子どもの思いを引き出す発問）を生かして、授業を行った。本実践では、「特別の教科 道徳」において番組視聴後、子どもたち一人一人の発言を板書上で結び付け、多種多様な考えに触れさせるようにした。そうすることで、自分の思いや考えが板書に位置付けられていくとともに、友達の発言とつながることによっても、大切なことが何かを考えられるようにした。

【取組の具体】

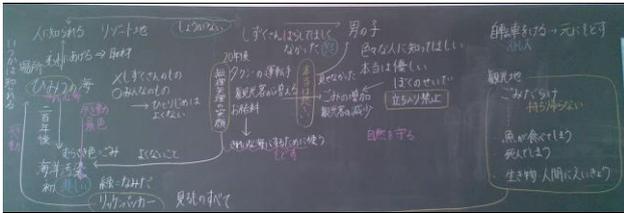
話し合い・構造的な板書による思考の高まり

○『もやも屋』ハナとふしぎな黒いあな



- ・3つの内容に焦点化（友達の提案を断れない場面・クラスの子が責められているところで自分の考えを言えない場面・自分の意思で動く大切さと決めることの難しさについて）され、話し合いが進んだ。
- ・何かを決めるときに「特に必要なことはない」と考えていた児童が、話し合い後の振り返りでは「勇気を出して、友達の意見に流されずに自分の意見を言いたい」と記述した。

○『もやも屋』ひみつの海



- ・2つの内容に焦点化（ひみつの海が色々な人に知られてしまった場面・ひみつの海が変わってしまった場面）され、話し合いが進んだ。

事前・事後アンケートの活用

- 内容に関連して事前に「自分が大切にしているもの」を聞き、事後には、「この学習を通して大切だと思ったこと」やその理由を聞いた。

【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組 道徳『もやも屋』

- 登場人物が迷ったまま終わったり、状況が謎のままだったりなど、子どもたちにとって消化不良の状態を終了するため、話したいという意欲を高める構成や内容になっている。
- 道徳的価値の内容項目の様々な要素が番組の中に入っている。子どもたちは自分の考えや経験に合わせて様々な視点から、発言することができるため、自然と多面的・多角的な話し合いとなる。
- 学級の実態に合わせて、放送順に関係なく内容を選ぶことができる。

【本実践における工夫点】

自由に思考させる視聴・発問

番組の事前情報を与えずそのまま視聴させた。思考の方向性のルールを敷かないことで、教師の意図を感じさせず、子どもの思考をそのまま学習の場に表立たせるためである。結論は一つでない上、正解があるわけでもない。空発問により、子どもたちから沸き起こった思いを受け止め、学級の話し合いを進めていった。

構造的な板書

子どもたちの発言の意図や思いを受け止め、板書に位置付けていく。その際、対立することや関連することを矢印で繋いだり、囲んだり、色で分けたりして、板書に表した。

アンケートによる児童理解

事前アンケートから、学習前の学級の実態を捉えるとともに、事後アンケートと比較し、子ども一人一人の考えの変化を捉えられるようにした。

【本実践の成果と課題】

- 「番組を視聴すると、話したいことが浮ぶ」と、8割以上（33人中27人）の子が回答し、番組活用によって子どもたちが自分の思いや考えをそのまま話すことや話し合いたいという意欲の向上につながった。
- 番組視聴を続けていく中で、発言する子が増え、9割以上（33人中31人）の子が友達の発言や板書から自分の考えが見つかったり、新たな考えが生まれたりすると感じると答えた。
- 道徳を学習するときの姿勢について、以前と比べて「友達の考えを参考にするようになった。」「自分だったらどうするか考えるようになった。」「発言が多くできるようになった。」と自分の成長を実感していた。
- △子ども一人一人の思いがさらに学級の中で生かせるよう、事前・事後のアンケートから児童理解を深め、日々の授業作りに取り組んでいく。

小学校4年 総合的な学習の時間 「ツクランカー」を活用した STEAM 教育の実践

～釜利谷のまちのハザードマップづくり～

横浜市立釜利谷小学校 山谷 直弘

【実践報告の概要】

4年社会科から発展し、「地域の防災」をテーマに総合的な学習の時間で学習に取り組んだ。低学年にも分かりやすい防災教育をめあてに、町の危険箇所や防災拠点等をまとめ、ハザードマップを作った。初めは紙媒体で作ったが、文字が多いことやレイアウトがごちゃごちゃしてしまうことから分かりにくいと6年生から指摘を受けて、デジタルハザードマップに挑戦した。デジタルの良さを活かし、写真や動画を容易に取り入れることができた。また、受け手の必要な情報だけを表示するタッチパネル型にすることで、低学年にも分かりやすいハザードマップを作ることができた。また、番組活用として、学校放送番組「ツクランカー」を一斉視聴し、プレゼンテーションアプリのリンク機能を活用してデジタルハザードマップを製作した。

【取組の具体】

4年 総合的な学習の時間

- 1 NHK for School の番組「STEAM 教育ツクランカーのぼうさい②」の回を視聴する。

〈番組の内容〉

マップを見やすくするため、デザインのプロに相談し、ピクトグラムの考え方を知る。

- 2 めあてを確認する。

低学年にとって活用されるハザードマップのアイデアをおさらいし、実際にやるべきことを吟味する。

ピクトグラムを使って、分かりやすくしよう。

- 3 番組を視聴して考えた、低学年に活用されるアイデアを出し合い、自分たちのハザードマップに生かす。

○アイコンが分かりにくい

→ピクトグラムを考える。

○地図が分かりにくい

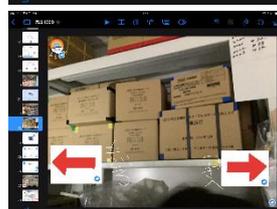
→もっと簡単にしたり、目印を立てたりする。

○楽しさがない

→イラストを入れたり、背景を変えたりする。

- 4 各グループにどのような改善があったか、発表し合い、情報をクラス全体に共有する。

- 5 各グループの次時のめあてや、解決に悩む問題などを出し合い、次時の見通しを立てる。



【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組 総合的な学習の時間「ツクランカー」

科学・技術・工学・芸術・数学などを横断したSTEAM教育の考え方を取り入れて、「みんなの役に立つものを作る」問題解決型の学習を実践した番組である。番組の構成に実際の授業をなぞらえながら取り組んだ。

【本実践における工夫点】

本單元における STEAM 教育の視点

【Science・Mathematics】川が氾濫したときの浸水範囲を海拔の高さから考える。

【Technology】災害時の状況を AR 技術により疑似体感する。

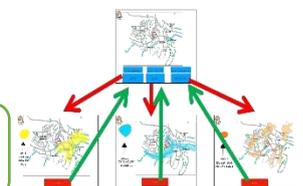
【Engineering】プレゼンテーションアプリのリンク機能を使って、タッチパネル型のデジタルハザードマップを作る。

【Art】1年生でも伝わるようにアイコンをピクトグラムでデザインする。

タッチパネル型のハザードマップ

プレゼンテーションアプリのリンク機能を活用することで、画面の切り替えや情報の表示/非表示、クイズゲームなどを組み立てていく。タッチパネルの良さを活かしながら、工夫していけるように支援を行った。

タッチ操作で画面が切り替わるようにした。



【本実践の成果○と課題●】

○低学年の役に立つものをつくるという目的をもって取り組むことができた。

○プレゼンテーションアプリの操作は直観的で簡単だった。

●「より分かりやすく」という視点で、必ずしもピクトグラムに絞らなくても良かった。

●分担してページを作り、最後に集約できる点では、プレゼンテーションアプリの強みが出たが、クラスで一つのサイトを作るには、様々な不都合が発生して難しかった。

2023年3月

小学校中学年 埼玉県放送教育会の理論を板書の思考ツール化で活用した実践 ～板書の思考ツール化による学習効果の検証～

川越市立霞ヶ関東小学校 教務主任 武井 佑樹

【実践報告の概要】

埼玉県放送教育研究会では、学校放送番組の視聴体験を通して「意味場」「空発問」の理論から、放送教育での授業実践を進めている。
(本研究会より出版された書籍→)

今年度は実践するたびに課題となる「板書」に焦点をあて、本来は児童が使う「思考ツール」を板書に取り入れた。「板書の思考ツール化」をすることで、「空発問」により発言された児童の思考が可視化され、かつ板書から思考を広げ、考えを深めることができるであろう。」と仮説を立て、学習効果との関係性を検証するため授業実践を行なった。

「わかる」を科学する



【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組…道徳「もやも屋」

- 2019年10月より新番組として放送開始。
- 「時々迷々」の系譜を受け継ぐ、10分のオムニバス・ドラマ形式の道徳番組。
- 番組にストーリーがある。
- タイトルや1シーンなど細かいところにこだわって作られており、考えるためのヒントとなっている。
- オープンエンドになっており、「考え、議論する道徳」の話し合いに繋げやすい。

【本実践における工夫点】

○「意味場」「空発問」の理論

- ・「意味場」とは、番組視聴後の児童一人ひとりのその子らしいとらえ方・考え方を示す。
- ・「空発問」とは、意味場をアウトプットするための教師の構えであり、指導技術を示す。

○「板書の思考ツール化」の活用

- ・番組が持つ力を最大限に発揮するために、「考えてほしい内容項目」や「関連する内容項目」などを本来は児童が思考する際に使用するツールを板書に活用し、整理して可視化した。

【取組の具体】

○授業の仕方

【事前】

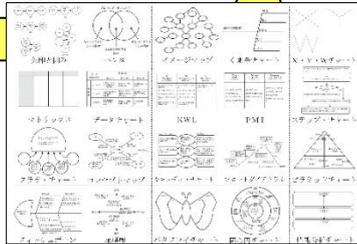
- 教材をしっかりと読み込み、思考ツールを選択する。
(アジャストしなかったときのことを考え複数考えるとよい)

【授業】

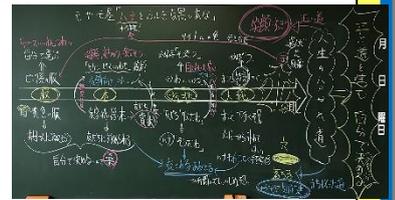
- ①番組を児童とともに視聴する。教師は児童の視聴しているときの感情の揺れ動きの様子を観察する。
(児童の頭の中には「意味場」が形成されている。)
- ②視聴後に「意味場」をアウトプットするために意図的に無意図の発問「空発問」をし、話し合う。
- ③児童の発言を板書に位置づける。関連があるところなどは色分けをしたり、矢印でつないだりする。
- ④授業終了間際に、Google Formsで「考えたこと」や「板書を見て感じたこと」など振り返り活動を行なう。

【事後】

- 教師は板書や児童のGoogle Formsから授業について振り返る。



【右】あの子の絵の具×Yチャート
【左下】ぼくの友だち×プロップダイアグラム
【右下】ハナとふしぎな黒い穴×対比型



発言	内容項目	内容を板書に可視化
1	文様、信條	エイトボールが学校に来ておぼろげに、本日はおぼろげな学校、無事から、この理由で動ける。知らない人も声をかける。これは学校の用意でもあるから。
2	感謝	一緒に遊んでくれたり、毎日来てくれるから。ついでにやらせてくれるから。
3	感謝	エイトは最初からおぼろげに動けるから。
4	文様、信條	自分から動いてみるから、動かないでいいよ。おぼろげに動ける。
5	文様、信條	友達と遊んでおぼろげに動ける。
6	文様、信條	動かないでいいよ。おぼろげに動ける。
7	文様、信條	動かないでいいよ。おぼろげに動ける。
8	文様、信條	おぼろげに動ける。おぼろげに動ける。おぼろげに動ける。
9	文様、信條	おぼろげに動ける。おぼろげに動ける。おぼろげに動ける。
10	感謝	おぼろげに動ける。おぼろげに動ける。おぼろげに動ける。
11	文様、信條	おぼろげに動ける。おぼろげに動ける。おぼろげに動ける。
12	重要・考え、察の強い発言	おぼろげに動ける。おぼろげに動ける。おぼろげに動ける。
13	文様、信條	おぼろげに動ける。おぼろげに動ける。おぼろげに動ける。
14	文様、信條	おぼろげに動ける。おぼろげに動ける。おぼろげに動ける。

青…考えさせたい内容項目 黄…関連する内容項目 赤…その他

【本実践の成果と課題】

- 番組を大型TVで一斉視聴したことで、教科書を使用したときに要する読解力を用いず、同じスタートラインに立って話し合いを始められた。
- 「板書の思考ツール化」をすることにより板書を整理し可視化したことで、「考えてほしい内容項目」や「関連する内容項目」に時間をかけて話し合うことができ、振り返り活動の結果から番組のもつ力を最大限に活用できた。
- しっかりと教材研究を行ない、教材にあった思考ツールを選択し、児童の思考そのものが板書に位置付くよう配慮する必要がある。
- 個人的な感覚だが6:4、7:3くらいで教師主導になっているので、もっと児童に委ねられればと思う。

小学校5年 「ツクランカー」を活用した表現活動

～まちの工夫を紹介するデジタルマップをつくろう～

横浜市立宮谷小学校 近藤 睦

【実践報告の概要】 まちの調査活動によって、横浜駅西口を中心にした宮谷のまちには、新しい時代に合う工夫がたくさんあることに気付いた子どもたちは、多くの人に知ってもらいたいと願い、情報マップを作成した。紙のマップではなく、新しい情報を加筆・修正できるデジタルマップを手段に選び、見てくれた人からのアンケートの結果をもとに、改善を繰り返すことを通して創造性を育むことをねらった。

【取組の具体】

小単元1 国語の学習を活かして、横浜駅西口を中心にした、まちの調査報告文を書いた。そして、自分たちも知らなかった誰もが使いやすい工夫がたくさんあることに気付いた。

小単元2 自分たちの気付きを多くの人に伝えるためには読みやすい文の形式に変える必要が出て来た。紙のマップでは、変化の激しい横浜駅周辺についての新しい情報を載せていくことができない。また、配布場所や印刷予算など、解決しにくい課題が多くある。そんな時、番組の視聴がヒントになった。形式を検討した結果、デジタルマップを作成することにした。横浜市都市整備局や、地元の社団法人など、多様な方々と関わり、改善を重ねながらスクラッチを活用して制作した。



スクラッチで制作したデジタルマップの一部

小単元3 できたデジタルマップを広める策に迷い、西口周辺の社団法人に協力を求めた。地元イベントの参加や、商店会との連携を果たすことで、校内外を問わず「宮谷のまちには、新しい時代に合った工夫がたくさんある」ということを広める活動を続けながら、まちの変化や見てくださった方からのフィードバックをもとに、デジタルマップを改善し続けることができた。

小単元4 保護者に向けた活動成果報告会を開いて、ここまでの活動の価値と、自分たちが活動の中でつけた力は何かを振り返って確認した。

【活用番組と実践者による番組分析】

ツクランカー「ぼうさい①」

ツクランカーは、ものづくりを通じて問題解決能力を育む STEAM 教育の番組である。番組の中では、総合的な学習の時間を軸にした教科横断的なカリキュラムマネジメントや、ものづくりのヒントが示されている。「ぼうさい①」では、既存の紙のハザードマップをさらに広めていくためにデジタルマップの作成が紹介されている。新しい手法での表現活動を促す効果があると考えられる。

【本実践における工夫点】

【アンケートの結果から、傾向を解釈する学習を活かす】

社会の資料の解釈、算数「割合を示すグラフ」、国語「図表やグラフを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」など、積み重ねて来た教科の力を活かすようにする。

【相手の反応を受けて、次の活動にどう活かすかの具体策を考える】

多くの人に広めていくための方策を考える中で、QRコードを使用し、ポスターを制作することでイベントでの活用、協力者のお店やHPにも貼ってもらえる事になった。意図を伝えるポスター、次はカード、チラシなど、強い必要感に駆られて、子供たちは次々と取り組むでは、相手の反応に合わせて表現を工夫していく事になる。



【本実践の成果と課題】

デジタルマップを作成する過程で、横浜市都市整備局、地元の社団法人など、多様な立場の方々のご意見をいただいた。他者からのフィードバックを改善に活かすことが有効であることに気付いた子供たちは、デジタルマップを広める過程でも見てくださる方にアンケートに答えてもらい改善を繰り返した。マップだけでなく、広報の仕方や、活動の意味をも問い直すことから、マップや活動そのものを創造していくことが、子供たちのまちつくりの見方・考え方に影響していった。

この活動を継続して残すことに課題が残った。

小学校6年 総合的な学習の時間

相手意識・目的意識を明確にした「オリジナル和菓子のポスター作り」

川崎市立西御幸小学校 田村 露那

【実践報告の概要】

小学校6年生の総合的な学習の時間において「オリジナル和菓子作り」に挑戦した。和菓子の販売活動において自分達の一方向的な想いを発信するのではなく、相手意識や目的意識を明確にもって販売活動に取り組んでほしいと考えた。NHK for School「アッ！とメディア@～media～」を活用し、ポスターに掲載する写真を撮影する際のメディア・リテラシーを高める実践を行った。番組の展開に準え、教室でも4枚の写真を見比べる活動を行ったことで、撮影するときの工夫で伝わるメッセージがどのように変わるのかに気付くことが出来た。また、粘土を活用してオリジナル和菓子の撮影練習をし、互いに成果物を見合う活動を通して、「情報がどのように伝わるのか」消費者の視点で考えることが出来た。

【取組の具体】

「ポスターに掲載する写真をどのように撮影したら良いのか」について、学校放送番組を活用し考える学習を行った。
(授業の流れ)

①写真で想いを伝えたい！という気持ちを高める！

番組視聴 「アッ！とメディア@～media～」

②想いを伝えるための「工夫」を知る！

③目的意識・相手意識の大切さについて考える！

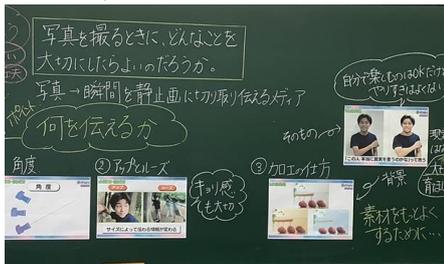
④撮影の練習をする！

「アッ！とメディア@～media～」 視聴
第9回「事実を写している？～写真～」

⑤学習の振り返り

想いを伝えるための「工夫」を知る！

写真は、瞬間を切り取っているもので、全ての情報を伝えることができるものではないことを確認した。また、写真のサイズやアングル、ポジションで、伝わるメッセージがどのように変わるかや、写真に後処理を加える際の注意点について考えた。



目的意識・相手意識の大切さについて考える

同じ題材でも、背景を変えたり小道具を添えたりすることで情報を受ける側の印象が変わることについて話し合った。番組内で取り上げられていた苺の例を発展させ、苺の生産者が写っているもの、大事に手で苺を持っているもの、苺を切り断面図を見せているものを見比べた。それぞれを見比べることで全く違う印象を受けることに気付くことができた。

撮影の練習をする

番組を見て話し合い、学習したことで理解しているつもりになっていることでも、やってみないと気付けないことも多くある。実際にオリジナル和菓子の撮影を想定し、粘土を使って撮影の練習をした。撮影したものを共有することで更なる課題を見つけた児童も多かった。自分たちの伝えたいメッセージをどう工夫したら相手に伝わるのか、より良い方法について考えることができた。

【活用番組と実践者による番組分析】

「アッ！とメディア@～media～」

「事実を写している？～写真～」(第9回)

「アッ！とメディア@～media～」は、メディア・リテラシーを身につけていないことによって起こる勘違いや失敗を、放送委員会を舞台にしたドラマで分かりやすく提示している。毎回どのようにしたら良いのかを視聴者に投げかけ、「メディア」の特徴や付き合い方を考えることができるように具体的にイメージさせてくれることで、主体的に学ぶ意欲を喚起させてくれる番組と捉えている。

【本実践における工夫点】

「自分事」として主体的に課題を受け止め学べる工夫

総合的な学習の時間で自分たちが開発した和菓子のポスター写真を撮影し、発信することを目的として学習に取り組んだ為、「メディア・リテラシー」について主体的に自分事として捉えて学びに向かう姿が見られた。ポスターの作り手としての情報を伝える立場と、ポスターを見る側としての情報を受け取る立場の両方の視点について必然的に考えることができていた。

1人1台端末の活用した写真撮影

番組を見て学んだつもりになっていても、実際にやってみないと分からないこともある。番組視聴後に実際に体験することで、学びが深まるように工夫をした。撮影中、番組の内容を思い出しながらさまざまなことを試している姿が多くみられた。また、撮影した写真をクラウド上で共有し、互いに見合う活動を取り入れた。これにより、自分たちの伝えたいメッセージがよりよく伝わるための方法を具体的に考えることが

【本実践の成果と課題】

はじめは「映える写真さえ撮れば良い」と考えていた児童が多かったが、番組を視聴することで「写真を見る人がどう受け取るのかを考えて撮影することが重要だ」と気付くことができた。特に「写真の後処理がどこまで許されるのか」といった部分は、「本物に手を加えてしまうと嘘になってしまうから気を付けるべきだ」と多くの児童が気付いていた。短い時間で、写真を見る人の視点を意識した情報の切り取り方や後処理方法の視点を児童は学んでいた。撮影した写真を見合うことで他者にどのような印象が伝わっているのかを確認する活動も取り入れたが、情報の受け手としての学びの体験がまだまだ足りないように感じる。この学習をきっかけとして多くの場面でさまざまな情報の意図を読み取る事を今後継続して指導していきたい。

特別支援学校（病弱教育）小学6年

「社会にドキリ」を活用したはじめての公民～主体的で対話的な深い学び～

東京都立光明学園 病弱教育部門 主任教諭 川口 尚人

【実践報告の概要】

新学習指導要領では小6の公民は単元が入れ替わり、歴史の前に学習することになった。5年生までの学習と違って日常生活とかけ離れていてイメージがつきにくい公民。「社会にドキリ」を視聴することで日常生活の中につながりがあることがよくわかる。在籍が1名なので、番組と対話するように、番組から発展させて自分が知りたいことを調べる方法もわかり、深い学びができるようになる。(10時間扱い)

【キーワード】 #税金 #国民の権利 #国民の義務

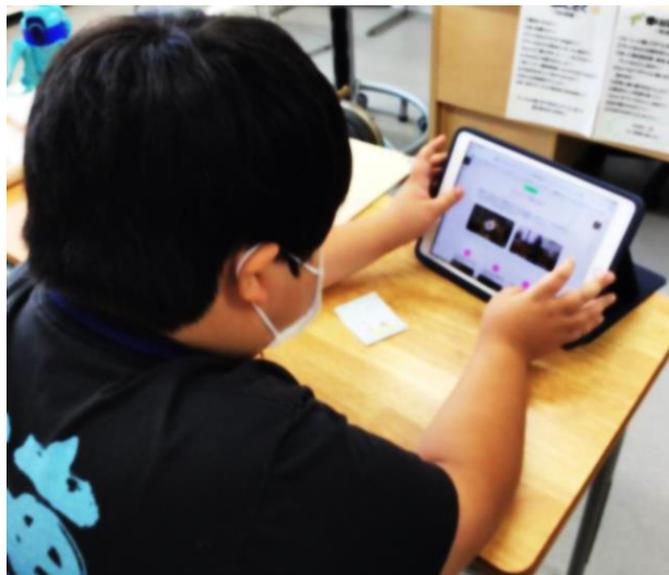
【取組の具体】 準ずる教育課程小学部6年社会(公民)

単元名「憲法と私たちの暮らし」

本時4/11『税金～権利と義務～』

ねらい 税金を通して国民の権利と義務を理解する。

1. 日本国憲法の3つの柱を思い出す。
 - ・今までの学習の振り返りと本時のねらいの確認。
(日本国憲法の国民主権と基本的人権について)
2. NHK for School「社会にドキリ」第4回『税金～権利と義務～』を視聴する。
 - ・一斉視聴。今回は児童が1名なので、大型モニターでも各自のタブレット端末でも、本人の希望する方で視聴する。
3. ワークシートに沿って書く。
 - ・分からなくなった場合を考えて、あらすじや静止画をプリントアウトしておき、適宜提示する。
4. 税金の納める義務について、考えたことを書き、発表する。
 - ・自分の言葉で書けるようにする。
5. 本時の学習の振り返り、まとめ。
 - ・自分の考えと感想を書き、発表する。



タブレット視聴の例

【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組「社会にドキリ」

小学校6年生が「社会」を身近に感じ、学ぶモチベーションを高めるための10分間の教育番組。「難しい、関係ない」と感じていた決まりや仕組みが、身近な暮らしの中にあふれていることに子どもたちが、社会の仕組みを主体的に考え、積極的に関わろうとする心を育む。(webサイト番組紹介引用)

- 小学生の公民の番組が今までなかったので実態に合っていて6年生には扱いやすい。
- 各回に設けられているワークシートがアクティブ・ラーニングを想定して使いやすい。
- 初めて公民を学習する6年生に具体的でわかりやすいエピソードになっている。

【本実践における工夫点】

主体的で対話的な活動の保障

- ・主体的に調べ学習ができるように、キーワードをいくつか挙げ、検索しやすいようにしておく。
- ・1名の授業なので、教員が話し相手になって思考を深められるように工夫する。

ワークシートの効果的な活用

- ・児童の実態に合わせてワークシートを工夫する。今回は同サイトにあるワークシートが非常に使いやすいのでそのまま利用した。できれば本時の授業自体の感想まで書けるとよい。
- ・いつも授業で使っているワークシートを今回用に変えて使用することもできる。

自分の考えや感想が書けない児童に対する配慮

- ・児童の実態や授業の特性に合わせてワークシートを工夫して作成することが望ましい。児童も思考を働かせている様子は見受けられる。そのためキーワードを単語レベルで発表させ、出てきた言葉から1問1答形式で思考を深める。出てきた言葉を板書することで文章構成にもつなげることができる。

【本実践の成果と課題】

- 初めての公民でも本番組を視聴して同サイトから簡単に検索でき、スムーズに活動することができた。
- ワークシートや授業をパターン化することで、授業進行の流れがイメージでき、主体的な活動が増えてくる。
- 在籍児童が1名、児童間の話し合いができない。他学年や他校との交流授業をいろいろな場面で設定して刺激になるようにする。

特別支援学校（病弱教育）小学部6年 社会 「土偶」作りで取り組む縄文・弥生・古墳時代の歴史～「ものすごい図鑑～文化財編『遮光器土偶』」をタブレットで活用した主体的な学び～

東京都立光明学園 病弱教育部門 主任教諭 川口 尚人

【実践報告の概要】

NHK for School の「ものすごい図鑑文化財編『遮光器土偶』」の、“どうやってつくった？”を視聴して、同じように土偶を作ってみる活動を行った。縄文・弥生時代を知るために、土偶作りの実体験を通して当時の人の気持ちを理解できたと考えた。タブレットで動画を繰り返し見たり停止させて見たりして制作の参考にした。（7時間扱い）

【キーワード】 #遮光器土偶 #鳥獣戯画 #埴輪 #縄文土器 #弥生土器

【取組の具体】 準ずる教育課程小学部6年社会(歴史)

単元名「国づくりへの歩み」

本時7/7『土偶作りに挑戦しよう～遮光器土偶～』

ねらい 動画を見て土偶作りに挑戦する。そこから当時の人の気持ちを理解する。

1. 土偶についての振り返り。
 - ・前時で見た「ものすごい図鑑文化財編『遮光器土偶』」思い出し、実際に粘土で土偶を作ってみる学習であることを確認する。
2. NHK for School「ものすごい図鑑文化財編」『遮光器土偶』“どうやってつくった？”を視聴する。
 - ・各自のタブレットで個別視聴する。
3. 動画を見本に土偶を作る。
 - ・動画を停止したり繰り返したりしてよく観察する。
4. 本時の学習の振り返り、まとめ。
 - ・本時の活動を振り返り、良かったところ・難しかったところと感想を発表し、作品を展示する。



「ものすごい図鑑文化財編」タブレット視聴



見本を見ながら土偶作り

【活用番組と実践者による番組分析】

活用サイト「ものすごい図鑑文化財編」

「ものすごい図鑑」の理科編は好評でレパートリーも多いが、文化財編はまだ3つしかない。しかし、元々の理科編同様に360度あらゆる角度から、それも超拡大で観察することができる。内部の様子も限なく見ることができる。

- このような実際の国宝を拡大したり近づいたりして1人でじっくり限なく見ることは不可能である。なので、非常に貴重な経験になると考える。
- サイト内には制作過程だけでなく歴史や保存場所の説明などが動画で確認できるようになっており、個別の調べ学習に適している。
- 陶芸家が作品を復元している様子を見ることができるとも貴重な映像である。

【本実践における工夫点】

主体的な活動の保障

- ・“土偶”というキーワードをもとにいろいろな調べ学習をした後、まとめとして土偶作りをする。
- ・基本的な作り方は皆同じなので、“土偶”“土器”“埴輪”の中から選択し、自分が作りたいものを1つ作る。(焼かなくても焼いた風合いになる粘土を用意。)

webサイトの効果的な活用

- ・「ものすごい図鑑文化財編」はそれ自体一見の価値があるが、サイト内の説明が動画を交えてわかりやすい。
- ・アクティブ・ラーニングに適している。児童の実態に合わせて、授業に合わせたワークシートを作成する。

体験学習を通して当時の人々の生活を理解

- ・土偶、土器、埴輪などを実際に作り、当時の人々の生活をイメージしたり共感したりすることで、教科書だけでは理解しにくい児童もスムーズに学習に入っていくことができるようにする。

【本実践の成果と課題】

- 体験学習を通して当時の人々の生活を理解する参考になった。
- 歴史が苦手な児童にもイメージがしやすく、主体的な活動に抵抗感なく入ることができた。
- 意外と土偶作りは難しく、見本動画のように実際には簡単に作れないことがわかった。そのため土偶作りにも高度な技術が必要だったことが分かった。

特別支援学校（病弱教育）高等部第3年「10min. ボックス生活・公共」を活用した公民権教育

東京都立光明学園 病弱教育部門 主任教諭 川口 尚人

【実践報告の概要】

成人年齢が18歳に引き下げられたことを受けて、高3の生徒に対して、学校では「公民権教育」、「消費者教育」を授業の中でどう取り組んでいるか非常に注目されている。本校病弱教育部門高3では、既習の日本史・世界史・地理・現代社会の復習をする「地歴・公民演習」という科目を学校独自で設定して行っている。在籍生徒5名で、選択授業ではあるが、全員が選択しているため、この授業で、公民権教育を行う計画を立てた。NHK for School「10min. ボックス生活・公共」と「アクティブ10 公民」を視聴して公民権について考える機会とした。(11時間扱い)【キーワード】 #公民権教育 #選挙権

【取組の具体】 準ずる教育課程高3 現代社会分野 単元名「公民権教育」

本時6/11『選挙って何のため？～選挙と選挙権～』

ねらい 18歳になれば高校生でも選挙に参加できるようになった今、選挙の歴史を振り返りつつ投票する意義や、選挙と中高生の生活とのつながりについて考える。

1. 公民権教育について本日のねらいを確認する。
 - ・選挙って何のためにあるのだろうか？
2. NHK for School「10min. ボックス生活・公共」第5回『選挙って何のため？』を視聴する。
 - ・一斉視聴、同サイトの“今回のまとめ”をダウンロード、コピーして配布。
3. ワークシートに沿って各自で考え、記入する。
 - ・どうして選挙年齢を引き下げられた？
 - ・誰もが投票できるようになったのはいつごろ？
 - ・身近な若者の生活と選挙からわかること
- 選挙や選挙権は何のためにある？
4. 各自で考えたことを共有する。
 - ・ワークシートに沿って1つずつ意見を出していく。
5. 選挙や選挙権は何のためにあるのだろうか。
 - ・互いに意見を出し合い、共有する。
6. 投票に行かない理由、行く際の不安を挙げる。
 - ・番組から発展させて投票に行かない理由や行く際の不安なことをできるだけ出し合って考えさせる。
7. 本時の感想を各自でまとめる。(発表はしない)
 - ・感想は毎回書いているワークシートに書く。
8. 小論文対策として思考の流れに沿ってまとめる。
 - ・時間があったら、授業の流れと同じような手順で文章をまとめて小論文にする練習をする。



web サイトよりダウンロードした“今回のまとめ”



授業の様子

【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組「10min. ボックス生活・公共」

- 「10min. ボックス生活・公共」は、現代社会で生きる中高生に、自らの心と体を大切に、尊重する気持ちの大切さを伝えると同時に、社会参画に必要なこととはなにかを「自分ごと」として考えてもらおうという番組です。(同サイト番組紹介より引用)
- 中高生向けの番組で、出演者のDAIGOやナレーションの平野文が親しみやすく高校生に受け入れやすい。
 - 現代社会の授業と違い、知識だけでなく自分の身近な生活として自分事として捉えることができる。
 - 番組の順番に沿って考えることでアクティブ・ラーニングの進め方を知ることができる。

【本実践における工夫点】

公民権教育のねらいを意識する

- ・選挙を前向きに捉えられるように進める。
- ・生徒が感じている、投票に行きたくない、行くのが不安、という気持ちを汲み取り、生徒同士で解決できるように配慮する。

ワークシートの効果的な活用

- ・普段の授業で使っている形式で今回用に作ったワークシートと、同サイトが提供する専用ワークシートを組み合わせ、思考の流れや活動の手順がよくわかるように提示する。後日の振り返りや欠席した生徒のために「今回のあらすじ」もダウンロード、プリントアウトして配布する。

小論文対策として思考や記述する手順を明示する

- ・番組のテーマを400字程度で小論文が書けるように、記述の展開を提示して、それぞれの部分を40～50字でまとめる練習をして、論理的に記述が展開できるように手順を明示する。それが慣れてきたら1200～1600字でも同様に行っていく。

【本実践の成果と課題】

- 公民の教科としてと、公民権教育としての両方のねらいにうまくマッチした番組で、ねらいに合わせて適宜視聴させると非常に効果的である。
- 現代社会では今までも行ってきた内容だが、年度途中で「公民権教育」という名で実践することになったので、当初は場当たりに進めたが、来年度は年間指導計画を作成して計画的に進めようと思う。

特別支援学校（病弱教育）高等部3年 「アクティブ10公民」を活用した消費者教育

東京都立光明学園 病弱教育部門 主任教諭 川口 尚人

【実践報告の概要】

成人年齢が18歳に引き下げられたことを受けて、高3の生徒に対して、学校で「公民権教育」、「消費者教育」を授業の中でどう取り組んでいるかが非常に注目されている。本校の病弱教育部門高3では、既習の日本史・世界史・地理・現代社会の復習をする「地歴・公民演習」という科目を学校独自で設定して行っている。選択授業ではあるが在籍生徒5名全員が選択しているので、この授業で、消費者教育を行う計画を立てた。NHK for School「アクティブ10公民」と「10min. ボックス生活・公共」を視聴して消費者としての心構えを考える機会とした。（5時間扱い）

【キーワード】 #特定商取引法 #クーリングオフ #消費者安全法 #デジタル決済 #電子マネー

【取組の具体】 準ずる教育課程高3 現代社会分野

単元名「消費者教育」本時2/5

『“キャッシュレス化”が生み出すものは？』

ねらい 18歳になれば高校生でも成人になり、いやでも消費生活に直面せざるを得なくなる。キャッシュレスの経済的な利便性と注意点を理解して適切なキャッシュレス利用ができるようにする。

1. キャッシュレス化についてねらいを確認する。
 - ・キャッシュレス化が進むと生活はどう変わるのだろうか？
2. NHK for School「アクティブ10公民」第14回『“キャッシュレス化”が生み出すものは？』を視聴する。
 - ・一斉視聴、同サイトの“あらすじ”をダウンロード、コピーして配布。
3. ワークシートに沿って各自で考え、記入する。
 - ・消費者を守る法律・制度とは？
 - ・“キャッシュレス先進国”スウェーデンの例
 - ・キャッシュレスのメリットは？
 - ・キャッシュレスの問題点
4. 各自で考えたことを共有する。
 - ・ワークシートに沿って1つずつ意見を出していく。
5. “キャッシュレス化”で生活はどう変わるか考える。
 - ・利便性と問題点を考えて互いに意見を出し合い、共有する。
6. 本時の感想を各自でまとめる。（発表はしない）
 - ・感想は毎回書いているワークシートに書く。
7. 小論文対策として思考の流れに沿ってまとめる。
 - ・時間があったら、授業の流れと同じような手順で文章をまとめて小論文にする練習をする。

【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組「アクティブ10公民」

- 「なぜそのような問題が起こっているのか？」「どうして解決できないのか？」など、現代社会のしくみを掘り下げます。新しい学習指導要領で重視されるいわゆる“アクティブ・ラーニング”のスイッチを入れます。（同サイト番組紹介より抜粋）
- 中高生向けの番組で、出演者の岡崎体育さんが親しみやすく高校生に受け入れやすい。
 - 知識だけでなく自分の身近な生活として、つまり自分事として捉えることができる。
 - 番組の順番に沿って同様に考えることでアクティブ・ラーニングの進め方を知ることができる。
 - 教科書から派生した実社会の課題をより深く考え、追究することができる。

【本実践における工夫点】

消費者教育のねらいを意識する

- ・キャッシュレスの利便性と問題点を明確にして、賢い消費者になるための知識を得る。
- ・計画的に使うなど、問題点を克服することで経済活動の一端として豊かな生活を送れることを知る。

ワークシートの効果的な活用

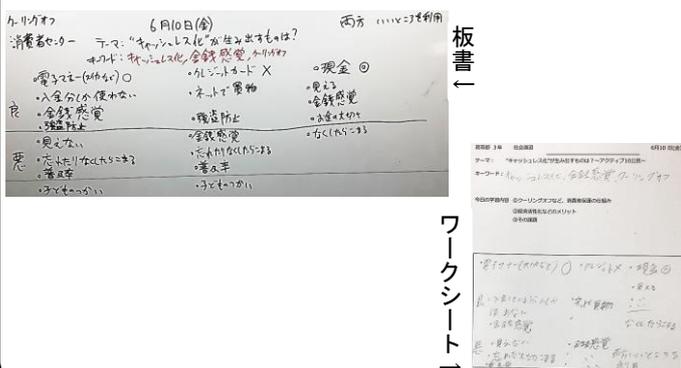
- ・普段の授業で使っている形式で今回のために作ったものを提示することで、思考の流れや活動の手順がよくわかるようにする。後日の振り返りや欠席した生徒のために「あらすじ」もダウンロード、プリントアウトして配布する。

小論文対策として思考や記述する手順を明示する

- ・番組のテーマを基に、400字程度で小論文が書けるように、記述の展開を提示する。それぞれの部分を40～50字でまとめる練習をすることで論理的に記述が展開できるように手順を明示する。それに慣れてきたら1200～1600字でも同様にできるようにする。

【本実践の成果と課題】

- 公民の教科及び消費者教育のねらいに合わせて視聴することで教科の理解と実生活の消費行動の理解を習得させることができる。
- 現代社会では今までも行ってきた内容だが、年度途中で「成人としての消費者教育」を実践することになったので、当初は場当たりの進めたが、来年度は年間指導計画を作成して系統的に進めたい。



特別支援学校準ずる（病弱教育）高等部第2年 総合的な探究の時間 「じぶんかくどかわる」制作と関わる中で取り組んだ文化祭に向けた映像制作～「プロのプロセス」から自作動画～

東京都立光明学園病弱教育部門 主任教諭 川口 尚人

【実践報告の概要】

「プロのプロセス」を活用した実践でNHKの企画「じぶんかくどかわる」の取材に協力した。取材したものをドキュメンタリー形式にして1分間で放送するというもので、文化祭で発表するために自主動画作りをする学習活動を選んだ。題材の検討から始めて、文化祭本番の発表まで取材班が5回ほど入った。「プロのプロセス第14回『PR動画の作り方』」を視聴し、同様に映像作りをして発表するという単元にした。在籍生徒は2名で、自分は担任ではないが、担任にも協力してもらって総合の授業を進めた。（8時間扱い）

【キーワード】 #動画作り #絵コンテ #SST

【取組の具体】 準ずる教育課程 総合的な探究の時間 単元名「光明祭の発表映像作品を作ろう」 本時3/8『PR動画の作り方』

ねらい 発表映像の作り方を番組視聴し、映像作りのプロのアドバイスを参考にして映像作りに取り組む。

- 映像作りについて本日のねらいを確認する。
 - P R動画の作り方と気を付けるポイント
- NHK for School「プロのプロセス」第14回『P R動画の作り方』を視聴する。
 - 一斉視聴。同サイトの「あらすじ」、「今回のまとめ」等の資料をダウンロード、コピーして配布。
- ワークシートに沿って各自で考え、話し合う。
 - 伝えたいテーマを1つに決める
 - 演出を決める
 - 絵コンテを描く
 - 早く終わったら台本原稿を考える
- 構成が決まったら役割分担をする。
 - 絵コンテで構成が決まったら2人で相談をして役割分担をする。
- 時間が余ったら自分の分担の台本を考える。
 - パワーポイントのノートに直接書き込ませる。
- 本時の感想を各自でまとめる。（発表はしない）
 - 感想は毎回書いているワークシートに書く。
- 今後の作業の流れを確認する。
 - 次時以降の作業のイメージを共有する。

【活用番組と実践者による番組分析】

企画「じぶん かくど かわる」と活用番組「プロのプロセス」

番組視聴をきっかけに変わっていく子どもたちを「角度」で表現したキャッチコピーが、この「じぶんかくど かわる」です。…中略…教育を取り巻く状況が大きく変わる中、長年子どもたちや教育現場を支えてきたNHK for Schoolの魅力であらためて感じてもらう企画です。（同サイトOUTLINEより）

「プロのプロセス」は、社会で活躍するさまざまなプロから、情報をあつかうテクニックを学ぶ番組です。（同サイト番組紹介より引用）

○この回はPR動画を作る際のアドバイスを提示している。今回の「じぶんかくどかわる」では「プロのプロセス」の制作者が取材に来たので、撮影の意図や番組に込められた思いなどを直接聞くことができ、いつも以上に集中できた。

○この単元は、自立活動で取り組んでいるSST（ソーシャル・スキル・トレーニング）を使って、日常的な生徒の悩みの解決法を自分たちで考えて回答を発表することにした。データ分析をしてパワーポイントでプレゼン資料を作り、それに合わせた台本作り、読みの録音と進めた。番組のサイトよりダウンロードした絵コンテを使って構成を考えた。

【本実践における工夫点】

“あらすじ”や“今回のまとめ”を利用する

・番組サイト内にある“あらすじ”や“今回のまとめ”をダウンロード、プリントアウトして使用することで、後からの振り返りや単元のまとめの時に番組内容を思い出すのに役立つ。

ワークシートの効果的な活用

・普段の授業で使っている形式のワークシートで、導入からまとめまでスムーズに進めることができた。思考の流れや活動の手順をわかりやすく示すことで、授業の流れや考えるポイントが明確になる。

「じぶんかくどかわる」の取材から学ばせる

・内容を知らない人にもわかるように説明することで、単元のねらいや発表の対象、自分たちがやりたかったことなどをすっきり整理ができた。

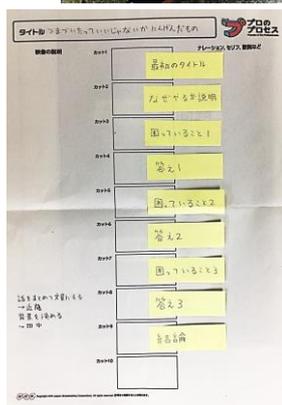
【本実践の成果と課題】

○文化祭で自分たちがやろうと思ったことを発表でき、十分にやり遂げた達成感を得られた。

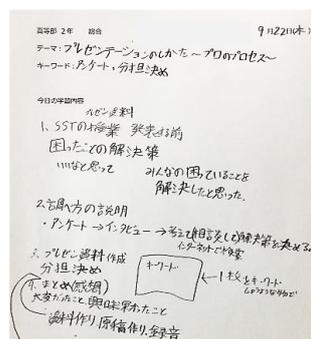
○初めてやる動画作りも番組視聴で具体的にイメージしてスムーズに取り組むことができた。



担任による単元の授業の様子



自作のワークシート
番組の絵コンテ
← 左右



特別支援学校準ずる教育課程（病弱教育）高等部3年

「アクティブ10レキデリ」を活用したアクティブ・ラーニング～小論文制作～

東京都立光明学園 病弱教育部門 主任教諭 川口 尚人

【実践報告の概要】

本校の高3は大学進学的一般受験とそれ以外とを考慮し、地歴・公民演習という本校独自の学校設定科目を設定して受験対策の教科指導と小論文対策とに分けて授業を実施している。地歴・公民で一般受験しない生徒は、1200～1600字の小論文が論理的に書けるようにこの授業で練習している。その中で日本史分野は「アクティブ10レキデリ」を視聴することでヒントとなり、思考の流れを習得することで既定の文字数が書けるようになった。まさに主体的で対話的な深い学びの実践であり、「レキデリ」はそのねらいに合う最適の教材となった。（25時間扱い） 【キーワード】 #定期市 #農業技術 #宋銭

【取組の具体】 準ずる教育課程高3日本史分野

単元名「中世」

本時2/5『定期市で庶民の生活はどう変わった？』

ねらい 定期市の定着で、庶民の生活がどのように変わってきたかを、資料を読み取ることで理解する。

1. 中世の経済活動について本日のねらいを確認する。
 - ・定期市で庶民の生活がどのように変わったのだろうか？
2. NHK for School「アクティブ10公民」第17回『定期市で庶民の生活はどう変わった？』を視聴する。
 - ・一斉視聴、同サイトの“あらすじ”をダウンロード、コピーして配布。
3. ワークシートに沿って各自で考え、記入する。
 - ・『松崎天神縁起絵巻』からわかること
 - ・農業技術の発達
 - ・鎌倉時代の買い物の様子
 - ・貨幣が普及すると生まれた新しいサービス業
4. 各自で考えたことを共有する。
 - ・ワークシートに沿って1つずつ意見を出していく。
5. 定期市の普及で庶民の生活はどう変わったのか。
 - ・ワークシートを順序立てて説明する。
6. 本時の感想を各自でまとめる。（発表はしない）
 - ・感想は毎回書いているワークシートに書く。
7. 小論文対策として思考の流れに沿ってまとめる。
 - ・時間があったら、授業の流れと同じような手順で文章をまとめて小論文にする練習をする。

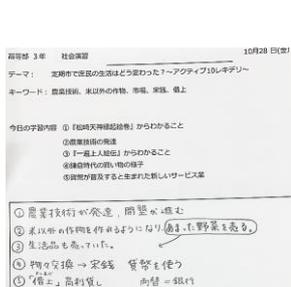


図1 ワークシート

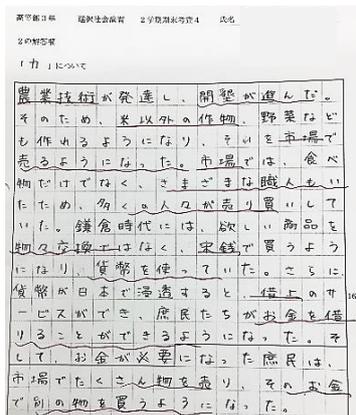


図2 定期市解答例

【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組「アクティブ10レキデリ」

歴史資料をいろいろな視点で調べながら、歴史のなぞ解きに挑戦。視聴後に「もっと調べたい!」「友だちとこの問題を話し合いたい!」という意欲をかきたて、新しい学習指導要領で重視されるいわゆる“アクティブ・ラーニング”のスイッチを入れます。(同サイト番組紹介より引用)

- 中高生向きの番組で、今までなかった歴史資料の読み取り方、歴史の考察の仕方がよくわかる。
- 教科書に出ている事柄でも教科書だけでは理解できないことを紐解いてくれる。

【本実践における工夫点】

時代を通して庶民の生活を理解させる

- ・時代背景がわからなくても、提示された『松崎天神縁起絵巻』等の資料を読み解くことで庶民の生活の変化を推し量ることができるヒントを用意する。
- ・時代の流れの中で庶民の生活が少しずつ変化していること、室町時代頃には現代日本の基礎になる庶民の生活の仕組が定着してきたことを理解させる。

ワークシートの効果的な活用

- ・普段の授業で使っている形式で今回用に作ったワークシートを提示することで、思考の流れや活動の手順がよくわかるようにする。後日の振り返りや欠席した生徒のために「あらすじ」もダウンロード、プリントアウトして配布する。

小論文対策として思考や記述する手順を明示する

- ・番組のテーマを400字程度で小論文が書けるように、記述の展開を提示する。それぞれの部分を40～50字でまとめる練習をして、論理的に記述が展開できるように手順を明示する。それが慣れてきたら1200～1600字でも同様に行えるようにしていく。

【本実践の成果と課題】

- 本校では日本史Aのみの開設なので通史の学習は時間がとれないが、3年の学校設定科目地歴公民演習で、「レキデリ」をポイント的に活用することで簡単に学習に取り入れることができた。
- 小論文対策が、「アクティブ・ラーニング」をめざす「レキデリ」を使うことで、日本史としての小論文の書き方がわかるようになった。
- 放送回のない歴史的事柄の番組を早く見てみたい。